

☆☆図書委員会よりお知らせ☆第2号☆

2011年11月～2012年1月（前期）新規登録の書籍をご案内します

新規購入 書名	著者名など	出版社	分類シール
聖書 原文校訂による口語訳	フランシスコ会 聖書研究所 訳注	サンパウロ	[橙 193 Fr禁]
エゼキエル書 旧約聖書IX	旧約聖書翻訳委員会 月本昭男 訳	岩波書店	[橙 193. 2 Kyu]
改革派教会信仰告白集 I・II・III	大崎節郎 編	一麦出版社	[茶 198. 386 Oh]
現代日本の危機とキリスト教 東日本大震災緊急シンポジウム	日本基督教団 救援対策本部 編	日本基督教団出版局	[茶 197. 6 Ni]
キリスト教カウンセリング講座ブックレット 6 聖書におけるスピリチュアリティー・ スピリチュアルケア	大柴譲治 著 賀来周一 著	キリスト新聞社	[茶 193. 211 Oh]
キリスト教カウンセリング講座ブックレット 14 アルコール・薬物依存症と そのケア	谷口万稚 著	キリスト新聞社	[茶 197 Ta]
キリスト教カウンセリング講座ブックレット 5 老いとそのケア	斎藤友紀雄 著	キリスト新聞社	[茶 197 Sa]
崩壊の時代に射す光 ヨブとミツが立つ世界の中	星野正道 著	オリエンス 宗教研究所	[赤 191. 4 Ho]

(裏へづく…)

おすすめ… 大村 栄 主任牧師より

『現代日本の危機とキリスト教－東日本大震災緊急シンポジウム』

これは2011年8月29～30日に銀座教会を会場に行われたシンポジウムの内容を掲載した本です。3月11日以来、私たちはキリスト者として、この事態をどのように受け止めるべきか、これをどのように語るべきか、そしてどのように次代へ伝えていくべきかを模索しました。その言葉を求めて行われたのがこのシンポジウムでした。教育者、神学者、社会福祉従事者、牧師の4つの立場からの発題は貴重でした。神学者（芳賀力東神大教授）の発題、「なぜ神は『悲しみの人』になられたのか」は出席した人々を感動させるものでした。芳賀先生は「神のコンパッション（憐れみ）が具体的な姿を取ったのが、悲しみの人となられたイエスです。…他者のためにキリストがそうするのであれば、私たちも行って、聖霊の助けのもとでそれをします。これがキリスト者の行動原理です」と言い、その神の憐れみに触れるためには、「神の憐れみの業を今も想起させる礼拝に与って、共に祈るほかありません。礼拝から復興支援が始まります」（P77-78）と語りました。教会で販売していますので、ぜひお読みになって下さい。売上の一部は教団の救援募金に捧げられます。

日本基督教団救援対策本部 編 （教団出版局 1900円）

『現代日本の危機とキリスト教』の内容に含まれる関連本『流浪の教会』は先号で紹介済みです。

ご寄贈 書名	著者名など	出版社	分類シール
現代日本キリスト教文学全集 1~18		教文館	[黒 908 Ge]
(副題と著者名)			
1. 神との出会い 椎名麟三 他	10. 母性と聖性	田中千禾夫 他	
2. 日本への土着 遠藤周作 他	11. 日常と家庭	三浦朱門 他	
3. 死と不安 矢代静一 他	12. 信頼と連帶	遠藤周作 他	
4. 愛と孤独 椎名麟三 他	13. 戦争と人間	曾野綾子 他	
5. 原罪と救い 遠藤周作 他	14. 変革と主体	椎名麟三 他	
6. 信仰と懷疑 田中澄江 他	15. 自然と生活	田中千禾夫 他	
7. 犠牲と奉仕 曾野綾子 他	16. 物と心 小川国夫 他		
8. 自由と虚無 椎名麟三 他	17. 聖書の世界 椎名麟三 他		
9. 幼年と青春 椎名麟三 他	18. キリスト教と文学 椎名麟三 他		
<hr/>			
放蕩息子の帰郷 父の家に立ち返る物語	ヘンリ・ナウエン 著 片岡伸光 訳	あめんどう	[橙 193.6 Ka]
<hr/>			
聖書を語る 宗教は震災後の日本を救えるか	佐藤優・ 中村うさぎ 著	文藝春秋	[橙 193.04 Sa]
<hr/>			
ものみの塔の源流を訪ねて 創設者ラッセルの虚像と実像	中澤啓介 著	からし種 出版	[茶 198.99 Na]
<hr/>			
ルカ福音書 聖書註解シリーズ 4	バークレー 著 柳生望 訳	ヨルダン社	[黄 193.6 Ba]
<hr/>			
峠の樅の木と 3台のパイプオルガン 辻宏パイプオルガン物語序章	辻紀子(としこ) 著	いのちの ことば社	[茶 196.7 Tsu]
<hr/>			

鑑賞して…

『峠の樅の木と3台のパイプオルガン』 辻宏パイプオルガン物語序章

著者辻紀子（としこ）さんは日本キリスト教団蘇原教会会員、翻訳家。この物語は岐阜県白川町にオルガン工房をもつ夫、辻宏が1本の樅の木から3台のパイプオルガンを建造する時に体験した実話で、制作中の写真やオルガンの構造図入りのとてもわかりやすい本です。宏氏は1958年東京芸術大学オルガン科卒業。オルガニストとして活躍する傍ら、オルガン建造者として日本で初めてパイプオルガンを作った人であり、その生涯に82台のオルガンを制作しました。3台の兄弟オルガンは千葉県「かにた婦人の村」の礼拝堂、カナダのモントリオール大学（日本から初めて海を渡ったオルガン）、岐阜県立美術館で夫々美しい音色を響かせています。（IH）

感想文や書評など募集しています。特に本を寄贈してくださる方は「おすすめ文」を「本のリスト」と共にお寄せいただければ幸いです。（図書委員まで）